

第4回 明日の高梁川を語る会 (議事要旨)

開催日時：平成22年5月25日(火) 10:00~12:00

場所：倉敷市芸文館別館 2階 202会議室

出席委員： 宇佐美 英司 (岡山弁護士会)
 内田 和子 (岡山大学大学院 社会文化科学研究科教授)
 片山 勝介 (元 岡山県農林水産部参与)
(欠席) 佐藤 國康 (元 川崎医科大学 教授)
 田中 収一 (山陽新聞社論説委員会 副主幹)
(欠席) 谷口 守 (筑波大学大学院 システム情報工学研究科 教授)
 永井 明博 (岡山大学大学院 環境学研究科教授)
 名合 宏之 (岡山大学 名誉教授)
(欠席) 西垣 誠 (岡山大学大学院 環境学研究科教授)
 波田 善夫 (岡山理科大学 学長)
 久野 修義 (岡山大学大学院 社会文化科学研究科教授)
 丸山 健司 (日本野鳥の会岡山県支部長)

12名中 9名出席 3名欠席

■議事

スケジュールについて

- ・意見なし

小田川合流点付替えおよび複数案比較について

- ・前回の語る会において説明し、今回提示する河川整備計画原案においても重要な位置づけとしている小田川合流点付替えについて、付替え以外の方法も含む複数案の比較において、小田川合流点付替え案が妥当であることを確認した。
- ・委員からの意見はなし。

高梁川水系河川整備計画(原案)【国管理区間】について

【委員】

- ・湛井堰の上流の掘削箇所には2箇所の中州があり、鳥類の休息場所になっている。この中州は掘削されるのか。

【事務局】

- ・中州は掘削しない。

【委員】

- ・高梁川総合開発事業が中止になった理由とその時の問題点があったとすれば、今は解消されているのか。

【事務局】

- ・高梁川総合開発事業の目的の1つである利水については、社会情勢の変化に伴い、利水者の方々が参画を取りやめたという経緯があるが、治水については必要であるとの方針が事業評価監視委員会から出されている。

【委員】

- ・下流区間については、河川整備基本方針の目標流量が達成できる整備を進めるという考えでよいか。また、22 kmより少し上流区間は流下能力がかなり低い箇所があるが、特に配慮されるのか。

【事務局】

- ・下流区間は整備後には河川整備基本方針の流量が流下可能となる。
- ・22 kmより上流の宍粟地区は堤防がなく流下能力は低いが、整備計画では宍粟地区下流の河道掘削を実施することにより、宍粟地区の水位が低下し、家屋の浸水を防ぐことができるようになる。

【委員】

- ・笠井堰の左岸側を可動堰にすると、砂州の形が洪水時にどんどん変わっていくということになるのか。

【事務局】

- ・堰改築の影響については、河床変動のシミュレーションなどのモデルを用いて検討しているが、その結果によると大きく河床が変わるという傾向は示していない。

【座長】

- ・笠井付近の大きな中州は、小田川付替え後には変化が著しくなる場所なのか。

【事務局】

- ・過去の航空写真では中州の状況は大きく変わっていない。付替え後の変化については、水理模型実験による検討を行う予定である。

【委員】

- ・河道掘削を実施した場合の川底や水際の辺りの養生はどのようなことを計画されているのか。

【事務局】

- ・河道掘削はできるだけ通常流れている水位から上の部分での掘削を行うこととしている。また、水際についても緩やかな勾配やワンドなどを残していけるように保全、配慮しながら掘削する予定である。

【委員】

- ・環境保全や維持管理は河川管理者だけで解決できる問題ではないと思う。アドプト制度、河川モニター、伐木ボランティアなど住民の参加・連携についての記載を加えてはどうか。

【事務局】

- ・現時点でも清掃活動や伐木ボランティアなどで住民の皆様にご協力いただいている。引き続き継続して実施していくことを記載したい。

【座長】

- ・環境面、維持管理面は住民の方の協力が必ず必要になるため、地域とのコミュニケーションの取り方、方向性について記載があればいいのではないか。

【委員】

- ・水辺の国勢調査について環境省と共同して実施すべきなどの指摘があるが、今後どうなるのか。

【事務局】

- ・今後、より効率的に実行性の高いやり方を目指して検討していくことになると考えている。

【委員】

- ・笠井堰は洪水時に左岸側が主流で流れると、右岸側は湿る程度というようなことが長期的に続き、完全に陸になってしまう可能性がある。森林化が進む場合、適当な時期に切り下げのことも考えておいたほうがいいかもしれない。

【座長】

- ・高梁川は土砂の多い川であったのではないか。最近の河川工事の中でも土砂の流出をよく見ておくべきではないか。

【委員】

- ・正常流量 16m³/s を維持するために具体的な方策は考えているか。

【事務局】

- ・高梁川については、施設を整備して 16m³/s を確保していくことにはなっていないため、協議会等での調整などソフト面での対応に努めたい。

【委員】

- ・渇水情報がよく出されているが、倉敷市民にとって渇水が日常的な不安になっている。渇水が年中行事化していく状況を河川管理者はどのように認識し、対応を考えているのか。

【事務局】

- ・全国的にも平常時の水の供給量が変わる傾向にあり、引き続き、データの整理と共に、今後のトレンド予測も含めて調査研究を進めていきたい。

【委員】

- ・現在の小田川と高梁川の合流点付近にある砂州は、付け替え後にはどのようなになるか。また、付け替えにより小田川と高梁川の合流付近は、平常時の流れがほとんどなくなるのか。

【事務局】

- ・小田川付替事業により高梁川と小田川を分離するため、小田川からの流入はなくなるが、下流に笠井堰があるため、その背水影響により平常時の水面は変わらない。

【委員】

- ・現在の高梁川のアユの産卵域の水の流れに影響するものではないということか。

【事務局】

- ・平常時の変化はないと考えている。

河川整備計(原案)に対する住民意見聴取資料について

【委員】

- ・想定氾濫区域内人口が 440,000 人となっており、流域内人口よりかなり多く、流域を越えて洪水になるということだと思うが、そのことを注釈で書いてはどうか。

【委員】

- ・意見募集の案内については新聞を取っていないという若い人も結構いると思う。

【事務局】

- ・ホームページでの掲載に加え、倉敷市のケーブルテレビ等で紹介いただける話もあり、活用して周知を図っていきたい。

以上